

圏域の人

このコーナーでは、在住の外国の方や、世界と関わる活動をされている方からの記事をご紹介します。

(都城市消防局、見玉徹さんの記事の続編です。)



次に私の仕事についてご紹介します。私は消防士としてコロンビア消防庁に派遣されました。まず最初に取り掛かったのが、現地の消防の状況を把握することでした。この状況調査に、約半年を費やしました。コロンビアの消防組織は日本と同じように自治体消防です。745の消防本部と約15,000人の消防士がいます。しかし、その構成は日本とは全く異なるものがあります。日本では約16万人の消防士がいますが、コロンビアの消防士の約8割がボランティアの消防士です。つまり、他に仕事を持ちながら消防士をしていることとなります。ほとんど地方の消防署の運営はすべてこのボランティアの消防士が行っていることとなります。そして、全体の消防士の約2割が女性消防士です。日本の消防も近年女性消防士が増加の傾向にあります。コロンビアに比べればまだまだ少ない印象を受けました。また、救急車の運用をしていない消防署も多くありました。その地域では、医療機関が救急車の運用をしています。このような状況の中で、私が大きな課題と考えたのが消防技術の面で都市部と地方に非常に大きな差があるという事でした。

そんな中、私の最も大きな仕事だったのが、コロンビアで工業振興地域として現在開発が進められている、首都ボゴタから車で約1時間程度のところにある、モスケラという地区での工場関係者や消防関係者を集めて開催された講演会への参加でした。そこで私は、日本の消防組織や法規制並びに災害対策の紹介のプレゼンをさせていただきました。多くの人前でのプレゼンで非常に緊張したのを今でも覚えています。

また、さらに、機会あるごとにあちこちの消防署に出向き、現地の消防士と意見交換や情報交換、時には訓練を計画し実施することが出来ました。そして、多くの消防の仲間を得ることが出来ました。そこで受けた質問で一番多かったのが「日本の消防士の規律ある行動や機敏な行動を習得するためにはどうしたらよいでしょうか?」との質問でした。さすがに私もこの質問には頭をかかえましたが、基本的には消防士に限らず、日本人は礼儀や躰が文化的にも習慣的にも幼い

ころから当然のように教育されています。また、知らず知らずのうちに日本人はそれを身に着けています。その段階の上に、日本の消防士の規律や行動がなりました。それを、文化・習慣の違うここコロンビアで習得させるために何が必要かと問われて、最後まで、うまく説明できなかったことを覚えています。逆に日本人の礼儀正しさや躰を重んじる文化、習慣は、世界に誇れるものだと痛感し、うれしさを感じる一面でもありました。



▲ガッツーナと呼ばれる鳥料理

また、地方の消防署での楽しみは、朝・昼・夜の食事です。基本的には肉料理が中心ですが、牛(カルネ)、豚(セルド)、鳥(ポジョ)何でも日本人の口に合います。特にガッツーナと呼ばれる、鳥を丸焼きにしたような料理?は最高でした。それを手掴みで食べます。それと、コロンビアで代表的なエンパナーダ。日本では見た目が餃子に似ています。それぞれの地方で大きさ、形が異なり、その地方独特の味を楽しむことが出来ました。



▲私が食べてお腹を壊した蟻のから揚げ

この2年間の海外生活を総括すると、一番何が必要であったか、何が重要であったかと考えると、仕事以前にまずより良い人間関係をつくること、職場の仲間や沢山の友人を作ること、知り合いを増やすこと。つまり、コミュニケーション能力の重要性、必要性です。言葉も当然ですが、外国では言葉も良くわかりません。言葉は伝達手段の一つにすぎません。自分の意思や感情や考えを全身を使って伝えるなどの能力を身につけること、また、どうすれば周りの人を引き付けられるか、自分に興味をもってもらえるか、その手段を考えることが一番大切であったように思います。おかげで、私は多くの同僚や仲間恵まれ、そして助けられ、守られ、どうにか現地での仕事もうまくやり遂げられました。

最後になりますがJICAをはじめとし、今回この派遣にご理解とご協力を頂いた多くの方々本当に感謝を申し上げたいと思います。さらには、現地コロンビアでお世話になった多

くの同僚や仲間たちに感謝したいと思います。私にとって第二の故郷が出来ました。多くの不安や期待が入り混じる中でのコロンビアでの仕事でしたが、今までの人生の中で一番価値ある有意義なものとなりました。今後はこの経験を活かし、都城で生活しておられる外国の方々を何らかの形でサポートすることが出来ればと考えています。さらには、都城市をコロンビアを始めとし、広く海外にアピールしていくことが出来ればと考えています。

以上、今回私のJICAボランティア活動の報告を終わります。

Chao,Chao,



▲訓練の様子

「夏休みの過ごし方」

～都城市モンゴル国際交流員 ソルマーさんによるモンゴル紹介～

モンゴルの学校と大学の夏休みは毎年6月15日から8月25日までですが、今年は緊急事態宣言により、2月の中旬から休校となっています。長く休校した分の授業をオンラインやテレビチャンネルを通じた授業で調整しました。

モンゴルの夏休みの過ごし方の定番といえば、国内家族旅行、田舎に住んでいる親戚や兄弟の家へホームステイすること、子供キャンプへ行くことです。中でも、子供たちが一番行きたがるのは子供キャンプです。

社会主義の時から、ほとんどの行政機関が独自で経営する“子供キャンプ”を持っていました。つまり、国がその機関の年間予算に子供キャンプ場の運営費を配分して、ほんの少しのキャンプ代を親からもらって、子供たちが楽しい夏休みを過ごせる場を提供してくれていました。今、考えると職員の家族を配慮した、ものすごくいい待遇だなあと感じます。



▲キャンプの様子

1990年の民主主義運動の影響で民営化が進み、“子供キャンプ”の経営が経済的に厳しくなって、ほとんどのキャンプが民営化されました。全額を本人たちが負担するため、昔

のような安いキャンプ代ではありませんが、環境と趣旨は変わっていないため、今でも変わらず夏の楽しみです。

子供たちは10日から14日間、山や森林といった景色の良い場所で、宿泊施設、食堂、図書館、屋外のスポーツを楽しむ広場などが整ったキャンプ場で、朝から夜までみんなで一緒に楽しく学習したり、遊んだり、山登りや川遊びをしたりします。それぞれ違う学校から来た子供たちなので、新しい友達がたくさんできて、学校生活と違う環境の中、みんなで楽しく過ごします。

私も、小学生の時からこのキャンプに毎年行っていました。一番楽しかったのは、文化発表会、遠足の後に食べる森の中でのお昼ごはん、キャンプファイヤーでした。



▲発表会後の集合写真



中国古人の「冷蔵庫」

～都城市中国国際交流員 銭さんの中国紹介～

電気冷蔵庫のない何千年の間、古人は智慧を絞って、色々な種類の「原始冷蔵庫」を使っていました。

・青銅氷鑑(鑑:古代中国の青銅器の一つで、深い鉢状の大型のたらい)

青銅氷鑑は中国の戦国時代に発明された原始お酒冷蔵庫です。銅鑑と銅の缶で組み合わせられていて、缶は鑑の中においてあります。鑑内の周りに氷を入れて、缶の中のお酒を冷やすという機能原理になっています。お酒を温めて飲むと脾臓や胃に優しいので、中国古代から人々は熱燗が好みます。しかしながら、夏の時期は避暑のため冷えた酒をよく飲んでいました。



▲青銅氷鑑

・木製冷蔵庫

明と清代の宮廷では冷却効果が更に高い木製冷蔵庫を使っていました。この器具は当時「氷桶」と呼ばれていて、古代の「氷鑑」から改良されてきました。冷蔵庫の箱の中は錫(すず)をはり、箱の底には小さな穴が開けられていました。すずのお陰で氷水は木製の箱を侵蝕せず、底の小さな穴から流れだす仕組みになっています。さらに冷たい空気がその穴から出てきて、室内の温度を下げられて、エアコンの効果も果たしてくれます。



▲明、清の宮廷木製冷蔵庫

・珙瑯(ホーロー)製冷蔵庫

(珙瑯(ホーロー):鉄、アルミニウムなどの金属材料表面にシリカ(二酸化ケイ素)を主成分とするガラス質の釉薬を高温で焼き付けたもの)さらにこちらの素晴らしい文化的価値と芸術的価



▲乾隆帝時代の
ホーロー製冷蔵庫

値を備えている故宮博物館の重宝、清の第6代皇帝・乾隆帝の時代に使われた有線七宝ホーロー宝相花冷蔵庫があります。

夏場の氷はどこから来たかと言いますと、それは冬の時期に氷を「氷井(冷蔵用の井戸)」などに蓄え、夏には取り出して使うようにしていたそうです。

協会情報

◇お知らせ

現在、オンライン以外のイベントは自粛しています。
なお、10月24日に予定していた「世界のビール&トリビアナイト」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため中止します。皆様のご理解をよろしく願います。

◇MIA NEWSに記事を書きませんか

過去の海外旅行記、海外留学体験記など、国際交流・協力に関する記事を書いてみませんか。1200字程度で、写真1~2枚、文字数は1200字以下でもかまいません。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

インフォメーション

◇都城市 日本語初級講座(全15回)

日時: 9月11日(金)~11月10日(火)の毎週火・金曜日
19時~20時30分 ※9/22、10/23、11/3は休み
場所: 都城市コミュニティセンター
対象: 都城市内在住の外国人
定員: 10人程度 ※申し込み多数の場合は選考あり
受講料: 無料 ※テキスト代1,100円が別途必要
申込: 9月4日(金)までに都城市役所国際化推進室まで
電話: 0986-23-2295 FAX: 0986-23-3223
E-mail: intl@city.miyakonojo.miyazaki.jp
※中止または延期になる場合があります。

編集部より

芸能人が俳句を詠み、俳句の先生がそれを評価するというテレビ番組を視聴して、俳句の方ではなく季語の方に興味を持ちました。8月は「蝉時雨(せみしぐれ)」「空蝉(うつせみ)」「法師蝉(ほうしぜみ)」といった季語、「山滴る」や「星月夜」といった景色を表現する季語があります。こういった「言葉」から情景を思い浮かべ、風情を感じることが出来る日本語の多様さと美しさを再認識するにつれ、自分の語彙力と感性を省みて残念な思いをしています。もっと本を読まなきゃダメですね。
[池田]

プラスチック製のおもちゃで遊んでいた1970年代から、1980年代に入ると、何と…家庭用ブラウン管テレビで「ブロック崩し」が出来ようになっていました。ちまたではインベーダーゲームが流行し、ゲーム喫茶などが出来た頃でしょうか。

また、液晶画面の「ゲームウォッチ」が流行ったのもこの後ぐらいですかね。我が家に初登場したゲームウォッチは、「ファイヤー」というゲームで、3階建てのビルが火災になり、飛び降りてくる人たちを、消防士たちが、タンカー一つで救急車まで運ぶというものでした。設定はともかく、この頃は、一つのゲーム機を、家族や友達とみんなで遊んでいたと思います。【次号に続く…】
[西畑]

子供たちが夏休みに入り、これまで夕方に行っていた犬の散歩を朝の涼しい時間に行くようになりました。アスファルトもまだ熱くなくて犬も快適なようです。子供たちも犬のためならと早起きをしてくれるので一石二鳥です♪飽きることなく夏休みの最後まで続くことを祈ってます。
[山内]

夏休みがはじまって、最初の月曜日に児童クラブの訪問がありました。去年の今頃も、そちらを訪れる機会があったので、一年ぶりにお友達と再会できました。

去年、四年生の女の子が、将来パン屋さんになる夢を語ってくれました。もう店の名前も決まっていて、商品のメニューまで考えていたんです。また、もし私がその店に行けば、好きなケーキを1個ごちそうしてくれる話もしました。

今回、「もし私が行けば、ケーキ1個もくれるという話をしていましたよね」と聞いたら、笑って「うん」と言ってくれました。夢も変わってない、将来のパン屋さんのオーナーと会って、美味しいご馳走をいただく一時でした。
[ソコ]

真夏となり、熱波が襲い、気温は一気に高くなりましたね。中国の暦では、1年のうちで気温が高く蒸し暑い日々、つまり真夏の時期を「三伏天(さんぶくてん)」と呼びます。今年の「三伏天」は7月16日

から40日間も続くそうです。また「三伏(初伏・中伏・末伏)」のうちの「中伏」は7月26日から8月14日まで20日間あります。1年で日照量が最も多く、最も蒸し暑い時期となり、中国でもほとんどの地域で「蒸し煮モード」や「バーベキューモード」がスタートすることになります。皆様も水分摂取は白湯を多めに、しかも喉が渇いてからの「がぶ飲み」はよくないので、喉が渇いた時に飲むのではなく、一定の時間ごとに水分を補給するよう心がけましょう。
[銭]

今月の謎シリーズ、第3回!今回、英語圏の新聞によく出て来るパズル、「Rebus」を紹介したいと思います!Rebusというのは、目の前に書いてある英文の中に一つのよく言うセリフが隠れている、ということです!例えば、ROFORKADなら、「FORK」が「ROAD」の真中に書いてあるので、「Fork in the Road」(岐路・分かれ道)になります!

頭を使い、英語能力を試してください!
グループ1(3問): BSICKED / AALLLL / ME JUST YOU
グループ2(2問): M CE M CE M CE / EGSG SEGG GESG SGEG
グループ3(1問): CI II
[ジョージ]

感動探し第一弾。認知症予防のために感動探しを始めました。でも、意識的に感動を探そうとしても見つかるのはコロナばかり!!(泣)そのような中でも見つけました!感動を!!

近くの義理の両親宅の月下美人が久しぶりに咲きました!!
月下美人は、夜になってからしか咲かないので、毎晩晩酌をする私には大変な苦痛を生じる行動なのですが、妻からの強い指示により出掛けました。内心は嫌々だったのですが、月下美人を見てその美しさに納得し、また、素晴らしい芳香にはこの匂いはどこかで嗅いだような懐かしさを覚えました。(決して加齢臭ではありません!)

ちなみに、月下美人の花言葉を調べると、「ただ一度会いたくて」、「はかない美」など切ないイメージの内容になっていました。そして、「妖艶」、「危険な快樂」という花言葉もありました。
私は、もう一度、危険な快樂に会ってみたいと思いました!!(笑)

[田中]

娘が、保育園から持ち帰った絵本を、おばあちゃんに読んでもらっていました。私は作業をしながら、絵本をのぞいたり物語を聞いたりしていました。挿絵の山、ソヨちゃんが先週教えてくれたモンゴル人ならではの山の描き方に似ているなあとっていると、読み進められる話にユキヒョウや鷲が登場してきました。えっ、その動物ってことは本当にモンゴルの絵本じゃないの?と急いで表紙を見ると、作者も挿絵もモンゴルの人でした。この絵本は我が家の愛読書になりそうです。
[迫田]